

【2018年1月 兵庫県在住 N様】

(旅のコメント)

実はフェリーを利用した九州のバイクツーリングは今回で3回目。

1回目はさんふらわあの弾丸フェリーを利用し、  
排気量に物を言わせて志布志から高速道路で錦江湾をぐるりと周り、指宿で砂蒸し風呂に入った。

2回目は某Mカーフェリーの三泊四日プランを利用して指宿に一泊、翌朝、開聞岳の絶景を愛でながら「たまた箱温泉」に入った。

「旅は断然二度目が面白い」の通説通り二回目で十二分に楽しめた。  
で、三回目となる今回のミッションは二回目の内容を凝縮すべく現地泊で「たまた箱温泉」に入浴することとした。

付帯する他の諸条件は、

- ・当然ながら法定（指定）速度を遵守し無事故無違反であること
- ・高い運転技術を要するコースは選択しないこと（誰でも通行可能なコースであること）
- ・高速道路は利用しないこと（排気量に関係なく誰でも実践可能な行程であること）として、なおかつ
- ・地名ヲタの聖地「志布志市志布志町志布志の志布志市役所志布志支所」に立ち寄ること
- ・航行時間15分の桜島フェリー船内でやぶ金のうどんを食べる事
- ・山川集落で生産者のアドバイスを受けながら工場直販の鯉節を購入する事
- ・低い運航率に加えてシケれば二輪を断るなんきゅうフェリーにバイクで乗船すること
- ・タンDEMシートのかみさんも楽しめること 以上を課した。



船に泊まろう。





フェリーさんふらわあ

(フェリーさんふらわあの旅1日目)

一月某日、たっぷり時間に余裕をもって自宅を出たはずなのに乗船後、車両甲板にバイクを停めてヘルメットを脱ぐとすでにタラップが半分ほど上がっていたなどというドタバタは私事なので割愛。

乗船してしまえばフェリーは快適そのもの。

乗船後、案内カウンターでツーリスト（雑魚寝部屋）からツーリストベッド（二段ベッド部屋）へアップグレードを申し出る。追加料金3000円/人を支払い、指定されたベッドで一旦、旅装を解く。

衆人環視のツーリスト部屋なら着替えもままならないがツーリストベッドならカーテンでプライバシーも守られるため気楽だ。（ちなみに予約時ならば両グレードの差額は3000円/人ではなく2340円/人。後学のため）

大半の乗客が乗船後、真っ先にレストランを目指すので、私たちは入浴を優先させた。

狙い通り浴場はほぼ貸し切り状態。心身ともにサッパリして、夜行フェリーのありがたみを満喫。さらに満喫すべくレストラン対面にあるリラックスルームのテーブルに陣取り用意して来た食料で時間無制限の晩酌をスタートさせる。

ちなみにレストランの営業は20時で終了してしまう。もう少し頑張っしてほしいところ。しかし船内自販機は缶ビール350mlが230円、発泡酒が同160円と市中価格と同じで非常に良心的。

途中、アナウンスで20:30よりミュージックイベントの開催が告知され、時間つぶしのつもりでロビーに行ってみた。

和装の演者が二人。

お箏とオカリナのユニットに「???'であったが果たして演奏が始まってみると見事な取り合わせ。楽しませて頂いた。

乗客を退屈させないために趣向を凝らしたイベントが週替わり?月替わり?で催されているようだ。

「昔の夜行フェリーは退屈だったのになあ」とオッサンじみた感慨に耽ってしまう。

朝まで続けて就寝するために出来る限り夜更かしを試みるも、

心地よい揺れには抗えず結局、日付が変わる前に電池切れとなってしまった。



船に泊まろう。





フェリーさんふらわあ

(フェリーさんふらわあの旅2日目)

翌朝、目覚めしてみると空は快晴！ツイてる！船酔いもない！しかし昨晚の大量飲酒（当社比）のため食欲がない。

これは予想された事態なので用意していたパンをかじりインスタントコーヒーをすすって覚醒を図る。

ゆっくり身支度して定刻08:55志布志港着岸。すぐには下船できない。

たいていバイクが一番最後だ。

その時間を利用してここ三日間欠航続きだったなんきゅうフェリーに電話で問い合わせると

「本日は通常運行、バイクも可」とのこと。ツイてる！

(09:22)「バイブスたけえ〜♪」のJK用語を発したくなる高揚感と共に九州上陸。

まずは地名オタの聖地、

志布志市志布志町志布志の志布志市役所志布志支所を目指す。

ケータイのナビで「志布志」と入れると小窓に目的地候補が住所とともに

表示されるのだが画面が「志」と「布」の文字で埋め尽くされることに

満足しながら出発。間もなく着いた。

画像からも分かるように、もはや行政側もネタとして認識している様子。

「サ行の滑舌が悪いY本の某芸人に発音してもらいたいな」などと考えながら

志布志市志布志町志布志の志布志市役所志布志支所を09:35出発し桜島港を目指す。



志布志から桜島港までは約70km。

街中を抜けると道路は空いているし一月の観光オフシーズンということもあってか交通量も極少。

おまけに一直線の道路が多い。

私のバイクは1300ccで197馬力を発生するエンジンを搭載しているが自制心と激しく闘いながら指定速度で走行する。

なかなかツライものがある。

とは言うものの、

鹿屋から垂水に抜ける県道74号線は豊富なアップダウンとワインディングで指定速度でも大いに楽しめた。

船に泊まろう。







フェリーさんふらわあ

(11:06) 桜島港フェリーターミナルに到着。

料金所で支払いを終え乗船待ちの車列に並ぼうとすると前方の係員が「おいで、おいで」の手招き。近づくとさらに前方の係員が「おいで、おいで」、で近づくとさらに前方の・・・。  
結局、一番後から来て一番先に乗ってしまった。

申し訳ない気持ちでいっぱいになったことに自分が善人であることを確認しつつ、バイクの固定作業を観察していると11:10にフェリーは出航してしまった。

マズイ！この船は15分後には到着してしまう。

その間に手荷物をまとめ、3Fの客室まで駆け上がり、やぶ金のうどんを注文し、食し、下膳し、再度3F下の車両甲板まで駆け下りて身支度を整えなければならない。  
しかも、一番前にバイクを停めたので到着後、私が直ちに下船しないと後続の車両が動けない！ヤバイ！

と、激しく焦ったものの結局、ひと肌+αでかき込むには最も適した温度の出汁に助けられて目的は果たすことが出来た。味わう余裕はなかったけど。



(11:28) 鹿児島市上陸。

当初の予定ではここから指宿までスカイラインを走る予定だったが現在、超一級の寒波が襲来している。  
楽しみにしていたが凍結の恐れがあるスカイラインはパス。  
条件を整えばぜひとも走破をお勧めしたいコースではある。



一般道を走り (13:08) 山川到着。

ここは枕崎で揚がったカツオを鰹節に加工する工場が数多くある。  
街中を走るだけで鰹節のいい香りが漂ってくる。

ここで鰹節を買い求めたい！でもどこで？不十分な下調べを補うために、明らかに加工工場の作業に向かうと思いき出立の方を呼び止めてアドバイスを求める。丁寧に教えて下さった。  
教えられた店でも一見の旅人に丁寧な対応と的確な説明を頂き「本枯れ」の鰹節を購入することが出来た。  
満足度が非常に高かったため先ほどの方にお礼を申し上げるべく加工工場に戻る。  
覗き込んでみると笑顔とともに出てきてくださった。感謝の意を伝え、許可を得て一枚「パチリ！」。

船に泊まろう。





フェリーさんふらわあ

(13:45) 本ツアー最大の目的地、たまた箱温泉に到着。

快晴の開聞岳を愛でながら露天風呂を堪能する。素晴らしい眺めだ！  
だが、それ故に執拗な「写真撮影禁止」だの「スマホ持ち込み禁止」だのの注意書きが目につく。  
ま、当たり前だけど。なので画像は無し。公式HPをググってもらいたい。

途中、露天風呂に浸かりながら、この絶景に入って来た途端に驚嘆の声を上げる人の数を正確にカウントしてみた。  
結果は地元のご老体おひと方を除く八人中七人が声を上げた。

気になった方は是非、お出かけいただきたい。きっと驚嘆の声を上げるはずだ。それほどの絶景がここにはある。

(14:30) わずか4kmしか離れていないなんきゅうフェリーの山川港乗場に向けて出航の一時間も前に出発する。

理由は「絶対に積み残しに遭わないため」だ。次発は二時間後。  
その憂き目に遭った日には復路のさんふらわあを逃し、弾丸ツアー自体が成り立たなくなってしまう。ここは慎重にも慎重を規する。

道中は一月にも拘わらず菜の花が咲いていて南国であることを感じさせてくれる。

そうそう、この日は土曜日だったが  
翌日の「菜の花マラソン(指宿マラソン)」に向けて現地入りする車が  
押し寄せ「根占→山川」便は積み残しが目立ったようだ。  
翌日は「山川→根占」がそうなるんだろうな。

五月の連休なんかもそうなるらしいし。後学のため。

出航45分前に到着したフェリー乗場はバイク一番乗りだった。

最後まで二番乗りは現れなかったけど。



船に泊まろう。







フェリーさんふらわあ

時間まで徒歩圏内にある道の駅をひやかす。  
の、心算だったがカツオの腹皮の塩焼きを試食して衝動買いしてしまった。

メチャクチャうまい！  
少々解説を加えるとカツオの腹皮とはいわゆる「トロ」の部分でこの時期はたっぷりと脂が乗っている。  
曰く「最高の酒肴」だそう。価格も手ごろだし。帰宅後の晩酌が待ち遠しい。

行儀よく出航15分前にバイクに戻りフェリーへと乗り込む。

丁寧なバイク固定作業に見とれて甲板員の方に話しかける。  
「しっかりと固定していただけるんですね」に  
「なので海の上でバイクがひっくり返ることはない。」  
「たいてい雨の日に停車もしくは発車時に自分でコケるんだよ」といった旨を  
屈託のない笑顔とともに軽妙なお当地言葉でお話いただいた。思わずこちらも笑顔になる。

個人的な意見だが私は南に住んでいる人ほど陽気だと思っている。  
そういえば日本列島の北端でも同様の声をかけた際には「んだ」の一言で終わったよな。

航跡の彼方に小さくなってゆく開聞岳に別れを告げて  
(16:25) 根占上陸。

さんふらわあの待つ志布志港まで70km。  
夕日で長く伸びた自分の影を見ながら快走する。  
本当に気持ちのいいツーリングだ。

(18:00)  
フェリーの煙突が港の倉庫群越しに見えた出航30分前、  
きっちりとさんふらわあから「イマどこ？」コールが入る。

丁寧な対応で逆にこちら乗船意志を伝えられたことに安堵を感じる。



船に泊まろう。

いお子様は半額5,000円〜！  
**10,000円〜往復**できます！  
平日も週末も  
弾丸フェリー。弾丸クルーズ





## フェリーさんふらわあ

今回も感じたが最近のフェリーは顧客満足度がハンパない。  
乗船手続きの際の事務所や船内ロビーでの案内対応はもとより、  
驚いたのは車両甲板で行きかうトラックの間を徒歩で移動するバイク乗りに係員が「危険ですのでご案内します」と  
エスコートしてくれたことだ。

これには正直、驚いた。一昔前に比して対顧客の姿勢が大きく変貌を遂げていることは記しておきたい。

(フェリーさんふらわあの旅3日目)  
翌朝、定刻に大阪南港入港。

船内アナウンスで案内された最前部のツーリスト部屋から  
手際のよい係留作業を見学して下船。無事に弾丸ツアーを終えた。



## ☆今回の旅先での行程☆

バイクで鹿児島県ぐるっとめぐり！

到着後、

志布志市役所～約70キロ～桜島港～（桜島フェリー）～鹿児島市内～山川・たまた箱温泉～  
山川港～（根占フェリー）～根占港～約70キロ～志布志港

(POINT)

- ・バイクで一般道を経由して温泉も食べ物も満喫！
- ・1日でフェリーを乗り継ぐと志布志港まで戻ってくることが出来る！（金曜日大阪出発）
- ・原付二種(125ccのバイク)でもこのコースは充分トレース可能。(現地走行距離203km)

☆今回の行程でおすすめ「バイク弾丸フェリー®」。往復15,060円～楽しめる船旅です。

※2018年2月現在の運賃です。

船に泊まろう。

